

## 在宅療養「在宅コーナー」

### 大津市瀬田地域の在宅療養推進支援チーム 「チーム勢多」について

大津市医師会 在宅療養推進部  
瀬田エリア

大 森 聖 一  
(医療法人レイクサイドクリニック)

現在、地域特性に合わせて在宅医療を進めるべく、大津市を7つの保健福祉ブロックに分けて活動が行われている。瀬田地域は瀬田南・瀬田・瀬田東・瀬田北・青山・上田上の6学区で成り立っている。平均すると、大津市の他のエリアより高齢化率が低く、人口がまだ増加しているといった特徴を持った地域である。しかし、瀬田・瀬田東・瀬田北は人口増加も多く若年者が多いが、上田上・瀬田南は高齢者の比率が多い。若年者が多い地域でも旧市街地は高齢者が多い。このように細かく見ていくと地域差が大きい地区でもある。ただ、全体でみると現時点では、高齢化による在宅医療の必要性が切迫していない。しかし現在の住民の加齢に伴い、今後他の地域よりも急激に在宅医療が必要となる可能性がある。現在逼迫していないので、在宅医療の受け皿はまだまだ小さく、今後受け皿を大きくしていくことが急務となっている。

そのためには、①地域住民への在宅医療に関する啓発と、②多職種の在宅医療に関するスキルアップが必要と考えている。トップダウンの在宅医療の拡充はなかなか進まないのが現状であり、地域住民がかかりつけ医などへ要望することで、その必要性が医療機関に伝わり、行動を起こさないわけにはいなくなる。地域住民に在宅医療を啓発することは、この地域の在宅医療推進の原動力になると考える。その動きが出来た時に、多職種の在宅医療のスキルを高めておくことで、よりスムーズで高品質の在宅医療を提供できるようにしようと考えている。今後、急激に在宅医療の必要性が高まる可能性を考えると、多職種の在宅医療メンバーを少しでも多くしていく

ことも重要である。

「チーム勢多」は医師・歯科医師・訪問看護師・薬剤師・ケアマネージャー・栄養士などの多職種と行政職員が集まり、在宅診療を拡充していくために必要なことを考え、企画・実施していく仲間である。まだ地域住民に在宅医療が理解されていない状況を改善するために市民啓発講座を行った。

平成27年11月15日、瀬田東市民センターで「大津市在宅療養応援講座 知っていますか？在宅医療～おうちで受けられる医療や介護～」と題して、病院退院後に在宅でどのような医療・介護が受けられるのかをプレゼンテーションした。約50名の参加者があった。パネリストとして病院相談員・介護支援専門員・医師・歯科医師・薬剤師・栄養士が登壇し解説・質疑応答した。市民の方々からの質問も多くあり、まだまだ在宅医療の啓発が足りないことがわかった。今後は、このような啓発活動をもっときめ細かく行うことが必要と思われる。たとえば、チーム勢多メンバー2～3名で各自治会の集会などに出向くことも効果的と思われる。

また平成27年12月15日瀬田東市民センター会議室でチーム勢多勉強会を開催した。チーム勢多には栄養士の方々が多く参加してくださっており、在宅での栄養管理などを充実させるためにも、メンバーの栄養関連の知識を豊かにするためにも、栄養士の方からの講義をしていただいた。医師・歯科医師・薬剤師・病院相談員・栄養士・介護支援専門員・県議会議員を含む42名が参加した。今後も専門家による勉強会を開催して、在宅医療に携わるメンバーのスキルアップを続けていくことが必要と考える。ま

た、このような勉強会の内容を、市民公開講座などに使用していくことも考えている。

多職種連携をさらに発展していくために、各職種ごとになるべく多くの仲間をチーム勢多のメンバーに入れて、相互の連絡を緊密にしていくことが必要である。今後の需要にこたえることが出来るように準備を進めていこうと頑張っている。

最後に、この地区の在宅診療を進めていく上で、医師への連絡をスムーズにするために、瀬田地域の

全開業医の先生方にアンケート調査を本年2-3月に行った。現在往診や在宅診療を行っているか。今後は増やしていくのか。連絡方法は電話で良いか。その時間は何時が良いかなど。突然の調査にもかかわらず、多くの先生が（執筆の時点で80%以上の先生方から）ご回答を頂いた。多くの先生方が瀬田の地域医療に頑張っておられていることを強く実感した。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

医師対象

## 大津市医師会アフタヌーンセミナー

日時 平成28年5月12日(木) 15:00~16:00

場所 琵琶湖ホテル 3階「瑠璃の間」

座長 大津市医師会 学術部長 吉田 滋先生

演題 『骨粗鬆症性圧迫骨折の外科治療』

講師 大津市民病院 脳神経外科 診療部長 高山 柄哲先生

日本医師会生涯教育カリキュラムコード(CC):「60(腰痛)」

日本医師会生涯教育講座認定単位:1単位

共催 大津市医師会/第一三共株式会社